

作 鄭 義 信 / 演出 松 本 祐 子

大空の虹 私 の 心 は 醒 る と 見 る と



坂口芳貞
清水明彦
木津誠之
柳橋朋典
山森大輔
江頭一馬
山本道子
頼経明子

美術 栗峯雅寛
照明 金英秀
音響効果 藤平美保子
衣裳 山下和美
舞台監督 岡野浩之
演出補 所奏
製作 友谷蓮之

九演連の皆さま

このお芝居は、かつては各都市にあった町の映画館に集う人たちの物語です。それぞれに大なり小なり問題をかかえた人たちが、人とふれあうことで変つていける。他者とかかわつてついた傷は他者とかかわることでは癒やされない。鄭義信のやさしさとユーモアに包まれた怒りを届けたのです。届きたいメッセージがあつて、それを受け止める観客がいる。劇団と観客が劇場で対話できる舞台こそが、演劇鑑賞運動としての例会です。大いに語り合ひましょう！

文学座公演

大空の虹を見ると 私の心は躍る

舞台は地方都市の繁華街のはずれにぼつんとある、廃館間際の映画館「新星劇場」。館主は安田均(清水明彦)。取り壊しが差し迫る中、息子映一(柳橋朋典)の友人・菅原太一(木津誠之)が東京から片付けを手伝いに来ている。

先代の館主・安田善蔵(坂口芳貞)は、亡き妻と映一の弟・映都の思い出が染み付いているこの劇場を愛おしみながら同じ話を繰り返す。映画館の従業員・浜田福子(頼経明子)は、次の職場に向けて活動中。近所に住んでいる佐々木須美江(山本道子)はまだ一度もここで映画を見たことがない。映写技師・大野守は安田家と深い関わりがありそんな謎の男。

それぞれが切なさと輝かしさを湛えながら生きている。
—最終上映まであと数日。



柳橋 朋典



木津 誠之



清水 明彦



坂口 芳貞



頼経 明子



山本 道子



江頭 一馬



山森 大輔

■ 劇評から

文学座のチーム力に目を見はる。2時間に満たない小編ながら、閉じられる映画館の人間模様がおかしくも切なく浮かびあがる。鄭義信の書き下ろし。さりげないセリフに人間の地肌を刻みこむ作風だけに、演技の燃焼が大切になる。これまでもコンビを組んできた松本祐子の演出が自然な演技の伝統を生かし、哀感を笑にくるめて描きだしたのは収穫だ。

(日本経済新聞)



大分市民劇場 第192回例会

9月27日(水) PM 6:30 ・ところ ホルトホール大分・大ホール
(夜1回公演)

お問い合わせは

大分市民劇場
☎532-0365

大分市大手町2-2-11
那賀ビル203

会費・入会金

大人 4,900円 (入会金2,500円+会費2,400円)
中高生 2,700円 (入会金1,500円+会費1,200円)

*市民劇場は会員制による演劇鑑賞団体です。前売券、当日券はありません。事前に入会下さい。